

自由法曹団東京支部

支部ニュース

2026年7月号 NO.631

〒112-0014 東京都文京区関口1-8-6メゾン文京関口II 202号
TEL03-5227-8255 FAX03-5227-8257 発行 自由法曹団東京支部



- 7月拡大幹事会(with 北千住法律事務所)のご報告……………幹事長 久保木 亮介
- 杉並区長選・岸本さん再選 ～東京支部の取り組みと感想～……………幹事長 久保木 亮介
- 杉並区長選挙、岸本区長が2期目当選！……………東京法律事務所 青龍 美和子
- 2026年ソフトボール大会について……………事務局次長 小河 洋介
- 憲法9条改悪に反対する新署名に取り組みましょう……………幹事長 久保木 亮介

7月拡大幹事会 (with 北千住法律事務所)のご報告

幹事長 久保木 亮介

★悪法の強行が相次ぐ中での幹事会

7月17日、東京支部の拡大幹事会を北千住法律事務所のすぐ目の前、東京芸術センターで行いました。北千住LOは、私(久保木)が新人の時に加えて頂いた刑事否認事件の弁護団会議のため足しげく通った、懐かしい事務所です。

国会で皇室典範改正案、国旗損壊罪法案、再審法見直し刑訴法改正案が次々成立させられる中での幹事会となりました。情勢の議論、サマーセミナーの準備等について議論した後、北千住LOの団員の皆さんから日頃の活動について、ご報告・ご紹介をいただきました。

★北千住法律事務所の団員の方々からのご報告

石井一禎団員からは、足立区戸籍業務プライバシー侵害裁判についてご報告頂きました。戸籍窓口の民間委託は偽装請負であることを追求、請求棄却となったものの労働者派遣法24条の2違反を明示した判決を得ました。裁判を支援する区民の運動もあり、戸籍異動の入力業務等の重要な業務を直営に戻させるなど、貴重な成果を築きました。

柿沼真利団員からは、福島原発事故の被害の実態と原因責任を解明し、被害に遭った住民の方々の人権の回復と脱原発社会を目指す、法律家・学者・ジャーナリストのネットワークである「原発と人権」の活動と今年9月に福島で行われる集会のご紹介を頂きました。また、足立図書館における不当雇止事件（勝訴）についてもご紹介頂きました。

金子美晴団員から、24年の入管法「改正」により3回目以降の難民申請者は申請中でも強制送還可能になり、25年5月に法務省が「不法滞在者ゼロプラン～協力推進パッケージ」を公表する中、長年日本で生活・稼働し家族も日本にいるが在留資格がなく仮放免で生活している外国人の方が送還されてしまうケースが増えていること、東京弁護士会外国人委員会で声明・検証を検討中であることが報告されました。

辻田航団員は、都合により不参加でしたが、①改憲問題対策法律家6団体連絡会の取り組み、②岸本さとし杉並区長を原告とする名誉毀損訴訟について、レポート報告を頂きました。また、黒岩哲彦・自由法曹団団長は空襲被害者救済をめざす法案成立のため連日国会に詰めしており、参加できませんでした。審議未了でまたも廃案となってしまうしましたが、団長の奮闘に敬意を表します。

幹事会終了後、北千住駅近くで和やかに懇親会が行われました。

★次回9月拡大幹事会は三多摩法律事務所で開催です！

8月はサマーセミナーがあるので拡大幹事会はお休みです。

9月の拡大幹事会は、同月16日（水）午後2時半から、三多摩法律事務所に場所をお借りして開催します！



杉並区長選・岸本さん再選 ～東京支部の取り組みと感想～

幹事長 久保木 亮介

1 はじめに

杉並区長選での岸本さとしさん再選については、青龍団員から包括的な分析が示され、長澤団員からミュニシパリズム（住民が地域の合意形成に参加し、自治体レベルで政治を動かすことを重視する民主主義の考え方）の意義、および岸本区政の4年間の実績と今回の再選の意義が述べられています。

これらの寄稿の内容との重複を避けつつ、①選挙結果について補足し、②区長選までの東京支部における取組みを振り返り、③今回の選挙戦についての感想を述べたいと思います。

2 選挙結果についての補足

各候補者の得票数・得票率、前回区長選との票数や投票率等の比較は、青龍団員・長澤団員から紹介のとおりです。以下、6月30日付朝日新聞の報道（出口調査）により選挙結果を補足します。

(1) 政党支持層ごとの投票先

- ・自民党：岸本 30、大和田 43、田中良 21、増田 6
- ・国民民主党：岸本 37、大和田 27、田中良 21、増田 16
- ・日本共産党：岸本 92、大和田 3、田中 4、増田 0
- ・中道・立憲・公明：岸本 76、大和田 7、田中 14、増田 3
- ・無党派：岸本 64、大和田 17、田中 12、増田 8

自民・国民民主の支持者の相当割合、無党派層の3分の2が岸本氏に投票しています。

(2) 高市内閣支持不支持との関係

- ・高市内閣を支持 54、不支持 44
- ・不支持層の投票先 岸本 73
- ・支持層の投票先 岸本 38（候補者中最多）

多くの区民は、国政と区政を区別して投票先を決めていることが伺われます。

(3) SNSや動画サイトの情報を重視したか

- ・重視した 31%
- ・重視しなかった 68%
- ・重視した層、重視しなかった層のいずれも投票先は岸本氏が最多。

3 東京支部の取り組み

(1) 学習・講演企画

東京支部では、今年の杉並区長選を強く意識した講演や学習会を実施してきました。

- ・昨年4月の幹事会学習会 「都民のための住宅政策を考える」（佐藤和宏・高崎経済大学准教授、住宅政策論）
- ・7月の幹事会学習会 「杉並から問う～民主主義のこれから」（青龍美和子団員、東京LO、杉並区民）
- ・8月のサマーセミナー 「デジタル社会と民主主義～杉並の経験を踏まえて～」（内田聖子さん、アジア太平洋資料センター〈PARC〉共同代表。岸本選対の本部長）
- ・11月の幹事会学習会 「サッチャー政権と新自由主義はイギリス社会に何をもたらしたか」（久保木匡介・長野大学教授、東京自治問題研究所理事）

(2) 支部有志による街頭宣伝

公示直前の6月18日、支部拡大幹事会の終了後、団員有志がJR高円寺駅前に集い、団員以外の区民弁護士も加わって、「岸本さところ・杉並区政について弁護士が語る街頭宣伝」を行いました。約20名が参加し、弁護士の視点からこの4年間の岸本区政の評価を語り、岸本区長の実績や政策を紹介するチラシを配布しました。

区内外から団員の皆さんが駆け付け、次々マイクを持って元気に岸本区政を応援し、楽しい宣伝となりました。私は街宣の途中から、生活保護受給中の区民の方の住環境についてのご相談で話し込み、あまり宣伝に集中できなかったのですが、最後の方で岸本さんの自転車

政策に期待するという応援演説をでき、良かったです。道行く人々は十数秒位で宣伝エリアを通り過ぎていくので、岸本さんの名前と「推し」の政策を端的に語るよう心掛けました。



4 感想

(1) 昨年のサマーセミナーでの講演について

昨年の東京支部・サマーセミナーの講師を誰にするかを支部執行部で検討した際に、私はぜひ内田聖子さんをと提案しました。

内田さんは前回区長選で杉本さんの選対本部長を務めており、著書「デジタル・デモクラシー ビッグ・テックを包囲するグローバル市民社会」（地平社、2024年）では、世界各国の自治体で、Google等のビッグ・テック主導の街づくりとは一線を画した、住民参加を重視した民主的な街づくり・自治体づくりが進められていることが紹介されています（「第10章 スマートシティを民主化する」）。杉並での岸本区政の誕生を、世界の大きな流れの中に位置づけ、自由法曹団がそこに積極的に関わっていく契機にしたいと考えました。

講演では、公共機関の顔認識システムの導入を禁じる条例案を可決したサンフランシスコ市議会、Google系企業による住民不在の「スマートシティ計画」を撤回させ緑と多文化共生を重視する住民生活中心のプランに切り替えたトロント市、オンラインで多様な市民の意見を集め政策や予算を決定しているバルセロナの例などが紹介され、参加者一同、大変刺激を受けました（講演の詳細は東京支部HPのニュース620号・621号）。

(2) 私個人の関わりについて

告示日以前は、ネット上での岸本区政へのネガティブキャンペーンが目につき「負けてしまうのでは…」との不安もよぎりましたが、告示日直前のキックオフ集会に参加し、会場から人が何百人も溢れかえる熱気と、SNS広告に頼らず政策と対話・宣伝で勝負するという岸本さんの固い決意に触れて「これは勝てるかも」と思い直しました。

最終版、選対本部に1日張り付きましたが、「引っ越してもう区民じゃないけれど、たまたま杉並に寄ったので、1時間でもよいから手伝わせて」という方など、岸本さんを応援したいという熱意にあふれた様々な方々が選対に出入りし、活気にあふれていました。

結果は圧勝でしたが、後日選対を中心的に担っていた方は「こんなに大差で勝てるとは…」との感想を述べていました。岸本さんが「対話の区政」に本気で4年間取り組み成果を築い

てきたこと、その中で築かれた区民との信頼関係が、選対本部や支援者の方々の予想を超えて、得票に結実したのだと思います。

団東京支部としては、前述の講演や学習会を通じて、岸本区政の意義や杉並区長選の重要性に意識的・継続的に触れてきたつもりですが、それがどの程度、またどのように個々の団員の行動（対話、SNSでの発信、宣伝活動等）に結びついたかについては、正直まだ十分集約できていません（ML等で経験交流や振り返りをしたいと思います）。

私自身は、前述の高円寺での弁護士有志の街頭宣伝、選挙期間最終盤での選対本部張り付き（チラシ折り、電話かけもやりました）、「学歴詐称」攻撃への名誉毀損訴訟の代理人活動、幾人かの杉並区民である知人や元依頼者の方々との対話など、ささやかですが岸本区政の支援と岸本さん再選のお手伝いできたかなと感じています。

（３）おわりに

今年の総選挙において東京８区（杉並区）で当選した自民党の門ひろこ氏は、国会周辺での市民のデモ活動を「ごっこ遊び」と揶揄し広範な批判を浴びた人物ですが、杉並区長選に際しても、X（旧Twitter）上で、「街中のベンチだの、お話し会だの『おままごと』」に区長がお戯れに勤しんでいるなどと発言し、岸本区政を嘲笑しました（その後削除）。

国会では、門氏のようなメンタリティの議員が跋扈し、悪法が次々と強行されていますが、この状況を地域から、地方自治を通じて押し返してゆく上で、岸本区政の４年の実践と今回の再選は豊富な教訓を与えてくれるように思います。

少し長くなりますが、「杉並は止まらない！」（岸本聡子、２０２４年、地平社）の末尾を引用して終わります。ⁱ

「区民参加型予算で区民が提案した、木製ベンチをまちなかに広める事業の“第１号”となるベンチがこの夏、区民のお宅の道沿いに設置された。背もたれに『ご自由にお座りください』と書かれている。『どうぞのいす』だ。お年寄りや障がい者、小さな子どもを連れた人、荷物をひととき下ろして休息する人。誰もが自由に休憩できるベンチがまちなかに増えてほしい。公共用地だけではスペースの限界があるが、区民が協力できる仕組みを自治体はつくることできる。歩きたいと思うまち、ゆっくりでやさしいまちをつくっていききたい。

参加型予算は１９８９年にブラジルのポルトアレグレ市で、貧困対策にあたって現実をいちばん知っているのはコミュニティの住人だという考えで初めて創設された。市民社会の強化、行政における透明性の向上、社会的公正の改善などの効果から、多くの国々や自治体の注目を集め、その後、５３か国に広まった（２０１９年）。３５年を経て、遠く離れた杉並に蒔いた参加型民主主義の小さな種をしっかりと育てていきたい。」

ⁱ 国内外での参加型予算の発展については、「月刊 住民と自治」（自治体問題研究所）の２０２５年５月号の「参加型予算に心を寄せて」（藤原遥・福島大学経済経営学類准教授）を参照されたい。

<https://www.jichiken.jp/chokugen/0049/>



杉並区長選挙、 岸本区長が2期目当選！

東京法律事務所 青龍 美和子

1 私と杉並区長選挙のかかわり

杉並区は、東京23区の西側に位置しており、緑豊かで閑静な住宅都市である。JR中央線沿線（高円寺・阿佐ヶ谷・荻窪・西荻窪）を中心に発展しており、それぞれ独自の個性を持っている。人口は約57.2万人（2025年時点）で、例えば鳥取県（約54万人）よりも多い大都市である。

私は杉並区に住んで15年ほどになるが、子どもがいないこともあって区立施設や地域行政についてほとんど知らず、正直なところ興味関心もあまりなかった。

そんな中、8年前の2018年、杉並区長選挙に同期の三浦佑哉弁護士（団員）が超党派の市民の支援を受けて立候補したことをきっかけに、どうも現区長は後ろ暗いところがありそうだと、にわかに杉並区政に興味を持ち始めた。

2 前回の杉並区長選挙とその後の区議会議員選挙

その4年後の2022年、今度は岸本聡子さんが彗星のごとく杉並区長候補として現れた。岸本さんはオランダやベルギーで20年以上にわたり、水道などの公共サービスを民営化した結果、経済効率やサービスの内容がどう変化したかを研究してきた公共政策のプロ。

三浦候補時代の支援者たちを基礎とする超党派の「住民の会」が立ち上がり、また、個人が思い思いに駅頭などに立ち、投票を呼びかける「ひとり街宣」が爆誕した。

当時の田中良区長は、区内の児童館全館廃止を決定したり、街や自然を破壊して大規模開発を進めていることに区民から強い批判が出ていた。また、元区長が区長専用車を深夜まで私的に乗り回していたことも問題となっていた。岸本さんは、「対話の区政」により児童館廃止や大規模な都市開発の見直し等を掲げ、187票差で現職区長を破り、見事当選した。

区長選挙の翌年、2023年4月に杉並区議会選挙があり、立憲民主党、日本共産党、れいわ新選組、緑の党グリーンズジャパン、無所属からそれぞれ岸本区長を支援した人たち（多くは女性）が次々と立候補し当選を果たした。区議会の半数が女性となり、構成が様変わりした。

前回の区長選挙とその後の区議選挙の様子は、映画『〇月〇日、区長になる女。』にもなっている（私も四谷姉妹として一瞬だけ登場し、また、同映画のDVDの特典映像にも出演している）。

3 杉並区・岸本区政の4年間

杉並区政4年間の実績ははっきり言ってすごい。挙げるときりがないので一部にしておくが、それでも以下のとおり。住民・利用者・労働者の声を丁寧に聞き、職員とともに実

行するという民主的プロセスを徹底してきた。

- 「対話の区政」の実践…地域ごとに都市計画道路について住民が話し合う「デザイン会議」の開催、「くじ引き」で選ばれた区民が気候変動対策を提案する気候区民会議、子どもたちの意見を直接聞き「杉並区子どもの権利に関する条例」に結実するなど、合計438回、のべ1万5000人が参加して、区政に住民の意見が反映されてきた。
- 子どもの居場所づくり…廃止予定だった児童館を存続させ機能を強化。児童館のない地域に児童館を新設。放課後等居場所事業の実施校を拡大。学童クラブの待機児童受け入れ枠の拡大等。
- 労働条件の向上…保育、児童指導、部活動指導員、介護認定調査員など、会計年度任用職員総数の44%、1100人の報酬引き上げ。これまで最大5回までとしていた再度の任用の上限回数を撤廃。公契約の労働報酬下限額を1500円にアップ。
- 人権擁護施策の拡充…性の多様性条例の策定、「杉並区パートナーシップ制度」の創設、「ジェンダー平等審議会」を設置、「多文化共生基本方針」を策定。
- 貧困対策…住宅確保要配慮者の居住支援を推進。セーフティネット専用住宅の賃借人に対する家賃低廉化補助制度を創設（同住宅の登録件数増加）。区営住宅の抽選に落選したひとり親、多子世帯への家賃助成制度を創設。区営住宅の戸数を拡大など。「生活保護は権利」を掲げ、生活保護の申請をためらわないように周知のポスターを作成・掲示。
- 情報公開…区長専用車を廃止。「区長日程表」（面談相手や出張先などを含む）を就任時より全面公開。
- 財政の健全化…以上のような施策を実行しながら、区の借金残高は3年間で8億円減、区の貯金残高は3年間で273億円増。

4 杉並区議会の支えと一部の妨害

この4年間、区議会構成が与党多数＋公明党の賛成により、岸本区政の予算案は滞りなく可決され、実行されてきた。

他方、自民党、維新の会、都民ファースト、国民民主党、無所属極右等の野党区議の質の低さが、岸本区政に無用の負担（主に精神的負担）をかけている。例えば、田中ゆうたろう区議は、区議会内外で岸本区長の誹謗中傷を繰り返し、2025年10月には根拠もなく「学歴詐称」と決めつけSNSで拡散した。この件は、岸本区長が原告となり、名誉毀損訴訟が訴訟係属中である。その他、区議会議場での、主に共産党区議に対する口汚いやジヤ、それを面白がる野党議員たちの態度の悪さは目に余り、来年の区議会議員選挙で正常化したいところである。

5 「選挙をアップデート」を掲げて2期目の挑戦

今回の区長選で、岸本選対は、「①政策で選ぶ選挙へ」、「②公正でひらかれた選挙へ」、「③攻撃・ハラスメントを許容しない選挙へ」という3つの方針を掲げて、選挙戦をたたかった。

①「政策で選ぶ選挙へ」

これは、「お願いする」選挙、すなわち「あの人は地域でよく見かける」「握手したことがある」というだけで何となく支持するのではなく、政策で判断しようという提起であ

る。具体的には、区内各所で政策を語る場を設けることと、公開討論会に必ず出席すること。

街頭宣伝では、候補者である岸本さん自身もちろん政策を語るが、毎回市民が複数名マイクを握り、実現してほしいことなど要望を語っていた。岸本さん自身も、熱っぽく感情的に訴えることはせず、淡々と論理的に区政を語る。演説の中身が、人々の生活を支える、安心した居場所をつくるというものだから、聞いていて優しさが伝わってきて温かい気持ちになった。折しも、前回の杉並区長選挙に着想を得たというテレビドラマ『銀河の一票』（カンテレ）が選挙と並行して放映されており、主人公たちの訴えと重なって感動もひとしおだった。

また、とくに公開討論会の影響は大きかった。岸本さんが必ず出席すると宣言したおかげで、告示日前後に計4回もの公開討論会が開かれ、内3回は候補者全員が出席し、政策を議論する場が設けられた。私のように、応援したい候補者が最初から確定している人にとっては、対立候補は「敵」であり、打ち負かす相手なわけで、他の候補の政策や人柄なんぞ有権者に見られなくてもよい、岸本さんの政策だけを知ってほしいと思うところである。岸本さんにとっても、公開討論会は現職区長が他候補から責任追及されがちで、有権者への印象が良くなる保証はない。

しかし、実際に討論会を視聴したところ、これが意外にもすごく面白かったのである！すべての候補者が、人格攻撃することなく、本当に政策をたたかわせていた。例えば、他候補は「対話の区政では何も進まない」と批判するが、実際に実行してきたことが明らかにされ、対話の必要性自体はどの候補も否定しえない。また、児童館全館廃止を決めた前区長がその理由を説明し、他の候補者たちは事実や認識の違いを示していく。他にも、学童クラブの待機児童が激増している実情やその原因、区内にある駅の出入口新設の問題など、今回初めて知ることが多かった。SNSで一部話題になっている杉並区立の学校のいじめ問題についても、いじめ重大事態に区長直轄型対応でいいのか、教育委員会の役割は…など、区政の課題について深く知ることができて、とても有意義だった。他の候補者の考え方や人柄までも知ることができ、なんだか候補者全員に愛着すらわいてきたくらいである。結果、岸本区政の実績や政策の良さが際立ち、他候補の政策の問題点や採用すべき部分も浮き彫りになった。

他方、自民党推薦の大和田伸候補（石原伸晃の秘書を務め、その後は自民党の区議会議員選挙トップ当選で3期勤めた）は、「街頭1000本ノック（区内で1000回街頭宣伝する）」を掲げ、まさに「ドブ板選挙」を展開して岸本さんの真逆を行く手法をとった。政策本位の選挙は、活動量や体力勝負ではないため、家庭責任を負うことの多い女性候補でも対等に選挙をたたかうことができ、ジェンダー平等を実現しやすい。大和田候補は「杉並をアップデート」というスローガンを掲げていたが、選挙手法は時代にマッチせず、有権者に受けなかったものと思われる。

②「公正で開かれた選挙へ」

これは、資金力とアルゴリズムが左右するYouTube広告などのSNS広告を使わない、政党や組織からの推薦を受けない、政治資金パーティをこれまでもこれからも開か

ない、障がい者や子どもなど誰もが参加しやすい環境に配慮する（UDトークなど）などである。

ちょうど国政では、高市早苗首相が、自民党総裁選やその後の総選挙で、お金にもの言わせて対立候補や対立政党の誹謗中傷動画を拡散させていた疑惑が追及されている。これと対比する形で注目を浴びた。さらに、選挙序盤で自民党推薦の大和田候補のY o u T u b e 動画が50万回再生されており、不自然だと話題になっていた。

公開討論でも議題となり、大和田候補はそれまでに80万円かけてY o u T u b e 広告を利用したと告白。増田義彦候補（再生の道）も、Y o u T u b e などの有料広告を利用していたが、討論会で岸本さんがやらないと宣言したことを受け、「迷っている」と発言。おそらく他候補は、以後、SNSの有料広告を控えたように思う。私のスマホに表示されてくる他候補の広告も減っていったことが証明している。

その代わり、岸本さんの支援者は、政策を分かりやすく伝える自発的なSNS投稿、「ひとり街宣」、集団での街頭宣伝などを展開。杉並区外からも応援がたくさん集まり、全国的に注目される選挙となった。告示日直前のキックオフ集会には、500人の会場に1000人が参加し、会場から人が溢れた。

③「攻撃・ハラスメントを許容しない選挙へ」

ネット上のデマや誹謗中傷には法的措置を含め毅然と対応。候補者、支援者、スタッフ、すべての人に対するハラスメントのない選挙を目指す。

この提案にも、高市政権へのアンチテーゼが含まれていると思う。さらに言うと、杉並区は、デモを「ごっこ遊び」と揶揄した門ひろこ衆院議員を今年2月の総選挙で初当選させてしまった。その門ひろこ議員が大和田候補と常にとともに選挙をたたかっており、選挙中もSNSで岸本さんの支援者らを攻撃し、度々炎上していた。

前記のとおり一部杉並区議の誹謗中傷が激しかったこともあり、岸本選対の中には誹謗中傷対策チームが作られ、反撃の必要性も判断しながら毅然と対応していった。

以上のとおり、4年間の実績も、今回の区長選に向けた政策も、選挙のやり方も、岸本さんが勝つためにとか、自分だけ有利になるためのものではなく、すべて杉並区に住む人、杉並区を利用する人、公のためであった。

6 杉並区長選挙における弁護士の役割

団東京支部にも協力をお願いして、告示日の10日前から、毎日午前・午後のシフトを作って選挙事務所に弁護士の担当者を配置し、随時公職選挙法上の相談に乗るという体制をつくった。その中で、以下のような質問が寄せられた。

- 告示日前に、岸本さんの似顔絵が描かれた看板を持って、政策ビラ（確認団体が作成した名前・顔入りのビラ）を配れるか？
- 「ひとり街宣」で音楽（洋楽）を流していいか？
- 告示日後の「ひとり街宣」で、「6月28日は杉並区長選挙」という看板を掲げながら、法定ビラ（確認団体が作成した名前・顔なしのビラ）を配れるか？
- 選挙カーの運転手（腕章をしている）がビラを配ってはいけないのか？
- 告示日後に開催された公開討論会を街頭で投影するパブリックビューイングを実施で

きるか？

みなさんならどう答えるだろうか？公職選挙法の解釈は実は広いということ、私もこの選挙戦で改めて認識したが、それゆえ、弁護士によっても見解が分かれる悩ましい質問も寄せられた。SNSで写真や音声が出回る可能性もあるため、厳しめの解釈をとった結果、選挙活動が委縮しているのでは？と思う現象も生まれたことがあった。

なお、京都支部発行の『自由にできる選挙活動』を選挙事務所に置いておき、迷った時は手に取って大いに役立てた。

7 私個人の活動

実は、今回初めて「ひとり街宣」をやってみた。自宅最寄りの新高円寺駅前で、夜20時30分頃から約30分間、1人でプラカードを持ち、岸本さんへの支持を訴えた。ほとんど全員が素通り・無視であり、心が折れそうになった。そんな中、30代と思われる男性会社員が話しかけてきた。なんと、「外国人は出て行ってほしい」と言う。無視されるより嬉しかったので対話してみた。理由を聞くと「外国人は犯罪をする」「外国人は迷惑行為をする」と言う。日本人でも犯罪をしたり迷惑をかけたりする人がたくさんいるじゃないかと指摘すると、「日本人は（犯罪しても迷惑かけても）良い」という。しかし、外国人はダメで日本人は良いという根拠については尋ねても説明せず、話をそらし、「外国人は道端で突然ひざまずいてお経を唱えるから迷惑だ」などと言い始めた。私は見たことがない言うと、彼も見たことはないと言う。しかしそのような動画が流れてくるから事実だと信じているらしい。その人は、排外主義の田中ゆうたろう区議が頻繁に新高円寺駅前で朝宣伝しているのを評価していた。「ひとり街宣」の効果はまるで無かったが、排外主義の広がりや恐ろしさを肌で実感した。対話はやはり重要である。

また、X（旧ツイッター）で、岸本さん応援の投稿に「いいね」したり、ポジティブコメントをつけてリポストした。中でも、杉並区議会で自民党会派が何をしてきたかをわかりやすく一覧表にした小泉なつみさん作成のnote（ブログ）の記事を引用し、「自民党、エアコン購入費助成、学校給食費無償化、訪問介護の報酬引き上げ、パートナーシップ条例…暮らしや人権保障に必要な制度にほとんど反対してる…」と投稿したものは、90.5万回も表示された。

8 岸本さとし圧勝！そして…

以上の経過で、6月28日（日）の投票日を迎え、翌29日に開票された杉並区長選挙は、岸本さとしさんが見事2期目の当選を果たした。しかも、投票率は、前回37%を5ポイント上回り、42%にアップした。岸本さんが2位以下を大きく突き放し、10万票を超える支持を集め、文字通り圧勝であった。

上記5で紹介した3つの選挙方針が功を奏して、岸本区政の4年間の実績や今後実現したい政策が有権者に伝わり、圧倒的な支持を得た結果だと思う。

国政では高市政権、自民党・維新の会が数の力を利用して、国会でろくに審議もせず、悪法を次々と成立させ、人々の生活より軍拡にお金を使う動きが目立つ中で、こんなにも民主主義が徹底されたうえで、人権や生活の保障に予算が使われる区政が選ばれたのは希望である。

ただし、同時に行われた区議補選では、岸本区政を妨害する立場の自民党と都民ファーストが議席を獲得した。区議会の状況が区民にまだまだ伝わっていないことを実感する。今後、区議会で誰が（どの会派が）、住民本位の政策を実現し、岸本区政を支えているかをもっと明らかにしていき、来年の区議会議員選挙でも勝つ必要がある。まさに、「選挙は続くよ、どこまでも」！



2026年

ソフトボール大会について

事務局次長 小河 洋介

今年も自由法曹団東京支部恒例行事であるソフトボール大会を開催します！
日時場所は次のとおりです。



2026年10月23日（金）
9：00～16：00
@大井ふ頭中央海浜公園

大会終了後17時頃から、会場内食堂にて
表彰式兼懇親会を行う予定です！



本年度もより多くの事務所に参加していただきたく、ぜひご参加をお願い致します。

なお、事務所で参加人数が足りない場合にも柔軟に対応いたします。参加者が9人に満たなくても、団支部執行部で合同チームを編成しますので、積極的に参加をご検討ください。

参加申し込みにつきましては、8月下旬頃に改めてFAXをお送りする予定ですので、まずは日程の確保をお願い致します。

憲法9条改悪に反対する

新署名に取り組みましょう



幹事長 久保木 亮介

★憲法9条改悪に反対する新署名がスタート！

改憲問題対策法律家6団体連絡会、9条の会など6つの団体の呼びかけで、憲法9条改悪に反対する新しい署名がスタートしています。

<https://www.kyodo-center.jp/wp-content/uploads/2026/04/20260401.pdf>

